

みずさわ



教育関係者を前に結果を発表する児童

小学生が家庭の電気使用量を調べ、地球温暖化との関係について学ぶ「小学生による電気使用量調査取組成果発表会」は8月22日、市役所で行われました。この取り組みは、環境学習の一環として平成18年度から行われています。ことしのモデル校となった真城小・羽田小の5年生92人が、1週間の期間を決めて、電気メーターの読み取りや節電を実践しました。当日は両校代表の児童10人が調査結果を発表。「小まめにスイッチを切るだけでも使用量が減るのにびっくりした。これからも省エネに気を付けたい」と感想を話すなど、日ごろの心掛けの大切さを実感していました。

節電は日ごろの心掛けから
小学生が電気使用量調査

まちの話題



フロ顔負けの名調子が響く

衣川の歴史を題材に講談上演会



衣川中の6人の女子生徒も講談に挑戦

「時は永承の年間…、衣のたてはほころびにけり…」“パン、パン” —。滑らかな名調子と威勢のいい張り扇で観客を沸かせた歴史講談上演会（衣里地区振興会主催）は8月16日、サンホテル衣川荘で行われました。

この催しは、郷土の歴史を講談で語り継ごうと企画されたものです。衣川中学校の生徒6人を含む19人が、女流講談師田辺一凜さんの指導で、7月から6回にわたってけいこに励んできました。同振興会の伊藤敏男会長が「前九年の合戦」「後三年の合戦」などを素材に脚本を書き下ろし、一凜さんが脚色。「近所の講談師」のプロ顔負けの語り口に、会場を埋め尽くした約180人の観客は大いに盛り上がりました。

一凜さんと師匠の田辺一鶴さんの口演披露では、メリハリのある流れるような語りで、観客を講談の世界に引き込んでいました。

えさし

地区住民の誇りを堂々掲げ

広瀬振興会のPR看板完成



周囲になじむこたわりの看板

広瀬振興会（菊地孝司会長）は8月11日、振興会設立20周年記念事業の1つとして、国道456号沿いにある地区のPR看板を一新しました。人口約1500人の同地区は、現在でも神楽、歌舞伎、人形芝居など14団体が活動しており、郷土芸能の伝承活動が盛んです。

看板は高さ約3m、幅約2.7m。丈夫なクリ材を使用し、景観になじむようにと古民具を意識した仕上がりになりました。デザインを手掛けた菅野範正広瀬地区センター長は「景観と文字の意味からも木製にこだわった。地元以外のドライバーにもPRができれば」と完成した看板をまぶしそうに見上げていました。

心癒やすバイオリンの調べ

北股で星空の里コンサート

「星空の里コンサート～ウィーンの風を星空の里に～」(北股地区振興会主催)は9月1日、北股地区センターで開かれました。

コンサートは、6月の大地震で大きな心の傷を負った住民を音楽で癒やそうと、同地区の若手有志が中心となって企画されました。地元芸能団体による演奏や演舞が行われた後に、本県出身のバイオリニスト下斗米千寿子さん、ウィーン国立音大教授でピアニストのレオノーレ・アウマイヤーさんが登場。クラシックや唱歌などが美しく、繊細な音色で奏でられ、詰め掛けた約300人の観客の心を癒やしていました。



本場ウィーンの音楽を披露する2人

いさわ

大人も子どもも童心に帰り

南都田でドロコンまつり



泥に足を取られながらの奮闘

南都田地区の休耕田で8月24日、泥んこになって元気に遊ぶことで、親子や地域の交流を深めようと「ドロコンまつり」が初めて行われました。雨が降り続くあいにくの天気でしたが、地区の親子ら約50人が参加しました。

胆江青年懇話会（菊池淳会長）の企画。子どもから大人まで水田で泥しぶきを跳ね上げながら、親子そりレースや二人三脚など4種目に挑戦しました。参加した胆沢第一小6年の鈴木梢竜君は「いつも見ている田んぼで遊べて楽しかった。田んぼがより身近に感じました」と泥だらけになった笑顔で話していました。

7年ぶりに念願の全国切符

前沢中ソフトボール部

前沢中学校ソフトボール部は、8月17日から富山県で開催された第30回全国中学校ソフトボール大会に東北代表として出場し、強豪校と熱戦を繰り広げました。

同部の全国大会出場は7年ぶり2度目。7月に行われた県中総体で3年ぶりに優勝し、続く東北地区大会で第2代表（準優勝）として念願の全国切符を獲得しました。全国大会では、1回戦で岡富中（宮崎）に0対2で競り負けました。チームをけん引した主将・菊地茜さん（3年）は「来年も全国大会に出場し、自分たちより上のステップを目指して頑張ってほしい」と後輩へその思いを託していました。



全国大会会場にて（富山県富山市）

まえさわ